

八ヶ岳定着山行報告

日程：2011年5月3日(火) - 4日(水) 前夜発

山域：八ヶ岳 一般路縦走

参加者：松林(単独)

行程：

第1日目：自宅(21:20) - 美濃戸口駐車場(仮眠) - 美濃戸口(6:00) - 行者小屋 BC 設営(9:30/10:30) - (文三郎尾根) - 赤岳山頂(12:00) - 展望荘 - (地蔵尾根) - 行者小屋 BC(14:00)

第2日目：BC(6:00) - 赤岳鉱泉 - 赤岩の頭 - 硫黄岳 - 硫黄岳山荘 - 横岳 - (地蔵尾根) - 行者小屋(12:30/14:00 テント撤収) - 美濃戸口(16:00) - 延命の湯 - 帰宅(22:00)

5月3日 曇り時々晴れ夕刻雪

今回は、コース・日程とも変更の連続になってしまった。連休後半の3連休を山でのんびりしようと、行者小屋テント場に2泊定着するつもりで美濃戸口から入山した。

この時期、雪は赤岳山荘から30分程の地点までほとんど無い。が、早朝は登山道に前日解けた雪がコティングしたように凍結していて滑りやすい。連休後半のためか、下山してくるパーティーも数組いる。9:30思っていたより早く行者小屋着。宿泊者はかなりいるようだった。小屋前の除雪した広場は土が出ているが回りはいまだに冬景色。





とりあえず1000円の今日のテン場使用料を払ってBCを設営する。10張ほど張ってある。天気は晴れて暖かいものの、中国からの黄砂で薄曇りのようなまったりした空気だ。二人用のテントを張り終え、サブザックに行動食・防寒着を詰め込んでアイゼン装備で出発。文三郎尾根には雪が張り付いているが、中岳との分岐からの稜線上と南向きの岩稜の雪は無く、アイゼンの爪が磨耗しないように雪と氷を探しながら登ることになった。赤岳山頂の眺望は利かなかった。風も無く、うす黄色くマッタリしてなま暖かい。早々に展望荘経由で地蔵尾根を下山。14:00に行者小屋BCに帰着。1時間ほど昼寝をした後で中山展望台に散歩に行く。中山峠からほんの少し西に上ったところが開けており、人はあまり来ていないようだが、展望台と言うだけあって、見晴らしが良い。意外と知られていない場所のようだ。中山峠通過時にはちょっと寄ってみるといい。行者小屋や赤岳鉱泉とは違って八ヶ岳の全貌が掴める。



外は暖かく、風も無いのでお湯を沸かしてコーヒーを飲んだり、センベイをかじったり、テントに横になって行きかう登山者を眺めたりと、ダラダラとした時間を過ごす。一人のこの時間がたまらない。来て良かったと思う。

日暮れから降雪。テントの中の水も薄く凍りだす。テント場にもテントが20張り程に増え、騒がしい。

5月4日 快晴

6:00出発。いったん赤岳鉱泉に下りて赤岩の頭まで一気に登る。空身だと息は切れても脚が上がらなくなることはないから快適だ。赤岩の頭で日焼け止めをたっぷり塗り、サングラスをかける。風はあるが快晴。相変わらずの黄砂で遠望は利かない。



休んでいると寒くなるので縦走路を歩き続ける。日差しが強く、南斜面の風の当たらない場所では、雪が腐っている。横岳からの巻き路ではトレールはしっかりあるが、シャーベット状に解けた箇所もかなりあって下りの足を置くバケツは崩れて滑りやすく、けっこう緊張する。この場所では2日前にも滑落者が出ている。

縦走路は連休の割には登山者が少なく、すれ違う登山者もまばらだった。



12:30空身のため、予定よりかなり早くBCに戻りついた。天気予報では明日の天気は崩れるようだ。

で、1日早めて下山することにした。16:30美濃戸口駐車場着。小淵沢道の駅にある延命の湯に寄って帰京。中国道は4日も渋滞続きで22:00帰宅。

天気も良く、久しぶりに一人でのんびりした山行だった。

(記: 松林)